

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学	必修	1年通年	30コマ・60時間	
担当教員	佐藤 巖	背景	歯科大学解剖学教員40年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)				
授業概要					
解剖学として人体の構造を理解するために作業療法士に必要な、脈管学、内臓学、内分泌学等に関する医学的基礎知識の説明と意義を述べる。					
狙いと到達目標					
臨床へ繋がるための応用力と解剖学的知識を統合する3次元解析能力を養う。このため、全身を構成する脈管名と循環の仕組み、消化、呼吸、泌尿、生殖を構成する各器官名と仕組みに関する名称を列記し、働きを説明出来るようになることを目指す。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床の現場で求められる知識は膨大で、その知識を瞬時に使えるには多くの経験が必要であるが、この講義の受講により少なくとも医学の基盤科目である解剖学の知識は、外科系ですぐにでも使える要素である。内容も多く、極めて重要な科目であることからしっかりと習得する者は卒業後にきわめて有利である。					
授業内容・計画					
1	解剖学の分類、歴史				
2	人体のしくみ				
3	解剖学用語と使いかた				
4	人体の区分と名称				
5	人体の構成、階層性、細胞、細胞膜				
6	細胞小器官、核、細胞分裂、染色体				
7	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織				
8	初期の発生				
9	鰓弓由来、子宮内発生、子宮後発生				
10	内臓学総論				
11	消化器系の構造と機能、口腔				
12	咽頭、食道、胃				
13	小腸、大腸				
14	唾液腺、肝臓、膵臓				
15	腹膜と臓器の位置				
16	循環器系の構造と機能総論				
17	心臓、刺激伝導系				
18	動脈系、頭頸部				
19	動脈系、内臓、四肢				
20	静脈系、胎生期の循環系				
21	リンパ系、作業療法との関連(体表解剖)				

22	呼吸器系の構造と機能、鼻、咽頭
23	気管、気管支、肺
24	呼吸運動、体表解剖
25	泌尿器系の構造と機能、腎臓
26	尿管、膀胱、尿道
27	生殖器系の構造と機能、男性生殖器
28	女性生殖器、会陰
29	ホルモンと標的器官、視床下部、下垂体
30	甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、その他の内分泌腺
評価方法	小テスト、定期試験、出席
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	解剖学実習	必修	1年通年	30コマ・60時間	
担当教員	佐藤 巖	背景	歯科大学解剖学教員40年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	規定による				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(第4版)				
授業概要					
人体の構造を理解するために作業療法士に必要な機能系に関する医学的基礎知識の説明と意義を述べる。					
狙いと到達目標					
臨床へ繋がるための応用力と解剖学的知識を統合する3次元解析能力を養う。このため、全身を構成する各器官名の仕組みに関種する名称を列記し、働きを説明出来るようになることを目指す。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床の現場で求められる基礎知識は膨大で、特に、痛みや機能系の習得には多くの経験が必要であるが、この受講により少なくとも運動器系、痛みの基礎知識は習得できる。このため、神経系の総合的理解により、臨床現場の状況判断や理解力を養うためにも人体の構造と機能をしっかりと習得することで卒後にきわめて有利である。					
授業内容・計画					
1	神経系の区分、神経系の構成、ニューロン				
2	神経線維、シナプス、神経膠細胞				
3	中枢神経系の構成、末梢神経系の構成				
4	髄膜、脳室				
5	神経系の発生				
6	脊髄の構造と機能、脊髄				
7	脳幹の構造と機能、延髄				
8	橋、中脳、網様体				
9	小脳の構造と機能、小脳脚、入出力				
10	間脳の構造と機能、視床、視床下部				
11	大脳の構造と機能、大脳皮質				
12	大脳辺縁系、大脳髄質				
13	機能局在、大脳基底核				
14	上行性神経路				
15	下行性神経路、作業療法との関連				
16	脊髄神経の構成、デルマトーム				
17	頸神経叢				
18	腕神経叢、胸神経				
19	腰神経叢				
20	仙骨神経叢				
21	四肢の末梢系				
22	脳神経(I-V)				

23	脳神経 (VI-XII)
24	交感神経系
25	副交感神経系、迷走神経、仙骨神経
26	感覚器総論、外皮
27	視覚器
28	聴覚器
29	平衡聴覚器
30	嗅覚器、味覚器、作業療法との関連
評価方法	小テスト、定期試験、出席
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	生理学	必修	1年通年	30コマ・60時間	
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験を経て医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 医学書院				
授業概要 生理学について教科書を中心にプリントや画像・映像資料・事例を交え講義する。					
狙いと到達目標 医療従事者として必要な生理学の基礎を習得させることを目標とする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。					
授業計画・内容					
1	生命現象と人体①				
2	生命現象と人体②				
3	細胞の構造と機能①				
4	細胞の構造と機能②				
5	神経の興奮伝導と末梢神経①				
6	神経の興奮伝導と末梢神経②				
7	神経の興奮伝導と末梢神経③				
8	(前期中間試験)				
9	中枢神経系①				
10	中枢神経系②				
11	中枢神経系③				
12	筋と骨①				
13	筋と骨②				
14	筋と骨③				
15	総括				
16	感覚①				
17	感覚②				
18	感覚③				
19	血液①				
20	血液②				
21	血液③				
22	心臓と循環①				

23	(前期中間試験)
24	心臓と循環②
25	心臓と循環③
26	呼吸とガスの運搬①
27	呼吸とガスの運搬②
28	呼吸とガスの運搬③
29	総括①
30	総括②
評価方法	試験、ノート点、レポート点を加味して成績を評価する。
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	生理学実習	必修	1年通年	30コマ・60時間	
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	岡田孝雄ら『生理学』改訂第5版(標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野)医学書院				
<b>授業概要</b> ヒトを対象とした生理学的・行動学的指標の測定とその評価と実習の成果発表をグループ学習で実施する。					
<b>狙いと到達目標</b> 講義や教科書などで得られた生理学に関する知識を実験や観察、グループワークによって印象づけ、より理解を深めることを目標とする。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	尿の生成と排泄1 腎臓の機能、ネフロン構造と働き				
2	尿の生成と排泄2 尿細管の再吸収と分泌				
3	尿の生成と排泄3 腎機能の評価、排尿				
4	酸塩基平衡 pHとは、アシドーシスとアルカローシス				
5	消化と吸収1 消化管の構造、口腔、食道				
6	消化と吸収2 胃の消化、小腸の消化と吸収				
7	消化と吸収3 肝臓の働き、胆汁の成分と働き				
8	消化と吸収4 膵液の成分と働き、大腸				
9	内分泌1 内分泌の仕組み、ホルモンの分類				
10~11	内分泌2 内分泌臓器とホルモン				
12	生殖と発生1 女性の生殖(関与するホルモン、性周期)				
13	生殖と発生2 女性の生殖(妊娠と分娩)、男性の生殖				
14	代謝と体温1 栄養素(種類と代謝)、エネルギー代謝				
15	代謝と体温2 体温の調節				
16~17	運動系実習				
18~19	呼吸器系実習				
20~21	消化器系実習				
22~23	血液系実習				
24~25	泌尿器系実習				
26~27	神経系実習				
28~29	感覚系実習				
30	まとめ				
評価方法	試験、ノート、レポート、小テストを加味して成績を評価する。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	渡邊悠馬・武藤友和	背景	作業療法士歴6年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	武藤:特になし(配布資料を行う) 渡邊:基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 病気が見える vol.7 脳・神経 第2版(メディックメディア)				
<b>授業概要</b> 体幹・股関節・膝関節・足関節の構造と機能(運動)についての知識を身につける。また、ヒトにおける歩行動作の意味を理解する。(武藤) 作業療法を実施する上で、臨床で人間の運動を治療的に分析できるようになるため、上肢の運動器に関する構造と機能についての基本的知識を習得する。					
<b>狙いと到達目標</b> 各関節の構造を理解し、その機能(運動)についての意味を理解することができる。また、運動学的な知識を応用し歩行動作についての意味を身に着ける。(武藤) 各関節の構造・機能を理解し、動作を運動学的視点で分析できるようになる。(渡邊)					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 実臨床でヒトの動きを評価のために使用してきた運動学知識を生かす。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、運動学について				
2	筋学総論				
3	股関節の構造と機能(1)				
4	股関節の構造と機能(2)				
5	膝関節の構造と機能(1)				
6	膝関節の構造と機能(2)				
7	足関節・足部の構造と機能				
8	体幹の構造と機能				
9	バイオメカニクス				
10	歩行動作				
11	基本確認				
12	肩周辺機構の構造と機能(1)				
13	肩周辺機構の構造と機能(2)				
14	肘関節、前腕の構造と機能				
15	手関節、手の構造と機能(1)				
16	手関節、手の構造と機能(2)				
17	動作の記述(1)				
18	動作の記述(2)				
19	動作の記述(3)				
20	顔面の運動学(咀嚼筋・表情筋)				
評価方法	筆記試験				
自由記述					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	運動学実習	必修	2年前期	30コマ・60時間	
担当教員	渡邊悠馬、武藤友和、 中浦俊一郎、中村由美	背景	作業療法士歴6年		
授業形態	実技	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	参考書:基礎運動学 第6版 医歯薬出版 人間の運動学 協同医書出版社 姿勢・動作・歩行分析 羊土社				
<p><b>授業概要</b>          身体の動きを動作分析ソフトを利用することで運動学的データを客観的に評価・分析を行う。グループワーク形式で行い、データをまとめて最後にプレゼンテーションを行う。(武藤担当)          作業療法を実践できるようになるために、身体の運動について体験学習をする。(渡邊他担当)</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b>          人の動きを客観的な数値として理解・説明することができるようになる。グループワークを通して共同作業を行いコミュニケーション能力の向上を図る。(武藤担当)          自身の体を使って正常とは異なる運動の真似をし、運動学的視点で運動分析を行い記述できる。運動分析の結果からできない原因を考察し治療プログラムにつなげることができる。(渡邊他担当)</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b>          人間の動きを客観的に評価・分析して治療プログラムに繋ぐため、実臨床で培ってきた経験を生かす。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	オリエンテーション、運動学的用語・表現の復習				
2	歩行用語・正常歩行の復習、歩行計測(1)				
3	歩行用語・正常歩行の復習、歩行計測(2)				
4	動作分析ソフトの説明、計測動作の説明、動作計測(グループ毎)				
5	動作分析ソフトの説明、計測動作の説明、動作計測(グループ毎)				
6	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
7	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
8	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
9	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
10	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
11	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
12	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理				
13	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理、プレゼンテーション準備				
14	動作分析ソフトを使用しての解析、データ処理、プレゼンテーション準備				
15	分析結果のプレゼンテーション(グループ毎)(1)				
16	分析結果のプレゼンテーション(グループ毎)(2)				
17	オリエンテーション 基本事項の確認				

18	動作の記述(画像)①
19	動作の記述(画像)②
20	動作の記述(オリジナルセッション)①
21	動作の記述(オリジナルセッション)②
22	動作の記述(オリジナルセッション)③
23	動作の記述(第1セッション)①
24	動作の記述(第1セッション)②
25	動作の記述(第2セッション)①
26	動作の記述(第2セッション)②
27	動作の記述(第3セッション)①
28	動作の記述(第3セッション)②
29	レポート作成(動作の記述)
30	フィードバック
評価方法	レポート提出、レポート内容、グループワークでの活動
自由記述 (メッセージ)	

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	人間発達学	必修	1年後期	15コマ・30時間	
担当教員	北村 弥生	背景	障害者リハビリテーション研究・教育歴10年以上		
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール、教科書持参				
受講条件	特になし				
教科書等	人間発達学(医学書院)上田礼子著				
授業概要 出生から死までの生物的、精神的、社会的な人間の発達について、平均像と機能制限がある場合について知識を得る。					
狙いと到達目標 発達段階の捉え方、各発達段階における発達課題を理解する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 担当する患者の過去、現在、将来およびについて、理解、想定する際の根拠とする。また、患部の機能だけでなく、社会性などの機能に配慮する必要性の根拠とする。					
授業計画・内容					
1	総論				
2	乳幼児期と学童期:身体				
3	乳幼児期と学童期:運動				
4	乳幼児期と学童期:認知				
5	乳幼児期と学童期:情緒				
6	乳幼児期と学童期:社会性				
7	乳幼児期と学童期:パーソナリティ				
8	青年期				
9	成人期				
10	老年期				
11	出生と末期				
12	横断的話題:データ				
13	横断的話題:文献				
14	横断的話題:災害				
15	横断的話題:家族				
評価方法	期末試験(筆記)、小レポート(中間1回)				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	基礎運動学	必修	1年前期	15コマ・30時間	
担当教員	渡邊 悠馬	背景	作業療法士歴6年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書:基礎運動学 第6版 医歯薬出版 プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典 ナツメ社 参考書:運動にかかわる筋肉のしくみ 新星出版社				
<p><b>授業概要</b>            作業療法を実践できるようになるために、運動学・運動学実習の基礎となる筋・骨格系の知識を習得す  <b>狙いと到達目標</b>            肩甲帯、上肢、下肢、頸部・体幹の主要な筋において、            ①名称・作用が記述できる。            ②構造(起始・停止・支配神経)が記述できる。</p> <p>授業において実務経験をどのように生かすか            臨床において特に重要度が高い項目を伝えることができる。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	運動学を学ぶための基礎知識(面・方向・軸) 各関節の運動				
2	肩甲帯・上肢の筋(僧帽筋・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・三角筋・肩甲挙筋・菱形筋・広背筋)				
3	肩甲帯・上肢の筋(肩甲下筋・棘上筋・棘下筋・小円筋・大円筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋)				
4	上肢の筋(橈側手根屈筋・尺側手根屈筋・長掌筋・浅指屈筋・深指屈筋・長母指屈筋・円回内筋・方形回内筋・回外筋)				
5	小テスト(第2～4回分)				
6	上肢の筋(上腕三頭筋・肘筋・長橈側手根伸筋・短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋・指伸筋・小指伸筋・長母指外転筋)				
7	上肢・手指の筋(長母指伸筋・短母指伸筋・示指伸筋・背側骨間筋・掌側骨間筋・虫様筋)				
8	手指の筋(短母指外転筋・母指対立筋・短母指屈筋・母指内転筋・小指対立筋・小指外転筋・短指屈筋)				
9	頸部・体幹の筋(斜角筋・脊柱起立筋・腹直筋・外腹斜筋・内腹斜筋・腰方形筋)				
10	小テスト(第6～9回分)				
11	下肢の筋(腸腰筋・大殿筋・中殿筋・小殿筋・大腿筋膜張筋・縫工筋・大腿四頭筋)				
12	下肢の筋(恥骨筋・短内転筋・大内転筋・薄筋・大腿二頭筋・半腱様筋・半膜様筋)				
13	下肢の筋(膝窩筋・腓腹筋・ヒラメ筋・足底筋・長母趾屈筋・長趾屈筋)				
14	下肢の筋(前頸骨筋・長母趾伸筋・長趾伸筋・第3腓骨筋・後頸骨筋・長腓骨筋・短腓骨筋)				
15	小テスト(第11～14回分)				
評価方法	小テスト30%(3回実施:10%×3) 筆記試験70%				
自由記述 (メッセージ)	* 赤ペン、色鉛筆(色ペン)を用意する。 * 必ず復習を行うこと。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	病理学概論	必修	1年後期	10コマ・20時間	
担当教員	山 美喜子	背景	東京歯科大学病理学講座で病理組織診断担当		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版				
<b>授業概要</b> 病理学の基本的概念を理解し、国家試験に必要な要点を把握する。					
<b>狙いと到達目標</b> 病理学総論を中心に、関連した国家試験に出題頻度の高い疾患について解説する。各授業に小テストを行い、教員、学生相互に理解の度合、授業の要点について確認を行う。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 病理診断医としての経験を基に、医療における病理医の役割、作業療法との関連について授業で取り上げる。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	病理学の概要、病因論 病理学の意義、主な外因				
2	退行性病変、代謝障害 退行性病変とは、代謝障害による疾患				
3	進行性病変、循環障害 進行性病変とは、主な循環障害				
4	炎症、感染症1 形態学的変化(主に循環障害)				
5	炎症、感染症2 炎症の分類				
6	免疫1 免疫担当細胞、抗原、抗体の種類と働き				
7	免疫2 免疫異常(主にアレルギー)				
8	腫瘍 腫瘍細胞の特徴、良性と悪性の違い				
9	先天異常1 遺伝性疾患(種類と特徴)				
10	先天異常2 染色体異常による疾患(種類と特徴)				
評価方法	期末テストの成績				
<b>自由記述</b> (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	一般臨床医学		必修	1年前期	10コマ・20時間
担当教員	熊本 恵美子	背景	臨床職歴31年		教育歴4年
授業形態	講義、グループワーク	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書なし、レジュメ・プリントを配布 参考書:PT・OT・STのための 一般臨床医学 第3版 医歯薬出版				
<b>授業概要</b> チーム医療の一翼を担うリハビリテーション医療者として、理解しておくべき臨床科目の概要を理解する。					
<b>狙いと到達目標</b> ・各臨床科目の特徴を大づかみに記述することができる。 ・授業内容の疑問について、解決方法を表現することができる。 ・各臨床科目について、自分の体験や考えをグループワークで表現できる。 ・グループワークで、他者の個別性や多様性を感じるすることができる。 ・医療への興味・関心や自己の学習課題について、主体的に考え始めることができる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 臨床経験での症例や自身の体験および社会的関心の高い事象を織り込みながら、授業を展開していく。それにより、受講生が具体的にイメージしながら、主体的に授業に臨めるようにしていきたい。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	一般臨床医学概論:診療科区分、診断・検査法、治療法、チーム医療、診療録				
2	救命救急医療:心肺蘇生、ショック、呼吸管理、輸血、救急処置				
3	外科総論:機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、血行障害、腫瘍、臓器移植				
4	皮膚疾患:解剖・生理、症状・病態生理、主な疾患				
5	泌尿器・生殖器疾患:解剖・生理、診断・検査法・主な疾患				
6	婦人科・産科疾患:解剖・生理、主な疾患、妊娠、分娩				
7	眼疾患:眼の構造、検査法、症候、主な疾患				
8	耳鼻咽喉科疾患:耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭疾患、気道・食道疾患				
9	老年医学、職業倫理:高齢者ケアの原則、高齢者によく見られる疾患				
10	高齢者の薬物療法、保険制度、職業倫理				
評価方法	授業・グループワーク参加状況および項目ごとの課題シート(講義についての振り返り)提出により、総合的に評価する。				
自由記述 (メッセージ)	本授業は入学直後の開講であるため、初学者には臨床医学における専門用語は難解である。できるだけ日常的な平易な言葉を使い、解りやすい説明していきたい。本講義の基本的知識が、関連する専門領域の授業への学習意欲につながることを期待する。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	内科学	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	水野 一也	背景	基礎医学研究28年／臨床医8年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 内科学 医学書院				
授業概要					
<p>内科学は臨床医学の基礎となる領域です。他の疾患由来のリハビリであっても患者さんの中には内科疾患を併発している可能性があります。本授業を通して個々の患者さんの中でどのような病態が進んでいるのか、どのような点に注意したらよいのかを理解していただくことを目標とします。</p>					
狙いと到達目標					
<p>慢性疾患の中でも高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病について十分な理解をしていただきます。さらに内科疾患発症において共通基盤と考えられる慢性炎症と血管障害の役割について十分な説明を心がけます。</p>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
<p>基礎医学研究の中で獲得して来た知識と実際の診察室で経験した症例、事例を融合させることによって、さらにはよく遭遇する疾患について詳しく説明することによって内容を暗記するのではなく病態の理解につながる授業を目指します。</p>					
授業計画・内容					
1	内科学総論				
2	内科学総論				
3	循環器疾患				
4	循環器疾患				
5	呼吸器疾患				
6	呼吸器疾患				
7	消化器疾患				
8	消化器疾患				
9	肝臓／胆道／膵臓疾患				
10	肝臓／胆道／膵臓疾患				
11	血液疾患				
12	血液疾患				
13	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
14	代謝疾患(とくに糖尿病、脂質異常症)				
15	内分泌疾患				
16	腎臓／泌尿器疾患				
17	腎臓／泌尿器疾患				
18	免疫疾患				
19	免疫疾患				
20	感染症				
評価方法	基本的に期末試験100%				
自由記述 (メッセージ)	教科書のダイジェストであるプリントを用意してプリントに沿って授業を進めます。各論においては扱う疾患を絞り込み、一つ一つの疾患の本態を理解していただくことが大切であると考えます。加えて実臨床での問題点などを紹介します。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	整形外科学		必修	1年後期	20コマ・40時間
担当教員	坂本千寿・阿部幸一郎	背景	10年以上の臨床経験		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	整形外科学テキスト 改訂第4版 南江堂 高橋那泰、芳賀信彦編				
授業概要	整形外科診療の基本となる基礎医学(解剖, 生理、運動学)および対象疾患の病態, 治療法など臨床医学の基本的知識を学ぶ。				
狙いと到達目標	作業療法士としての職務を果たすために必要な整形外科学を理解、習得する。				
授業において実務経験をどのように生かすか					
授業計画・内容					
1	総論 整形外科学総論、整形外科診断学				
2	整形外科治療法				
3	各論 部位別の外相と疾患				
4	運動器総論				
5	片関節 上腕				
6	ひじ関節 前腕 手関節と手指①				
7	ひじ関節 前腕 手関節と手指②				
8	股関節 大腿				
9	膝関節 下腿				
10	足関節 足部 脊椎・脊髄①				
11	足関節 足部 脊椎・脊髄②				
12	全身性の疾患 慢性関節疾患①				
13	全身性の疾患 慢性関節疾患②				
14	ロコモティブシンドローム・運動器不安定症				
15	神経疾患・筋疾患①				
16	神経疾患・筋疾患②				
17	骨系統疾患①				
18	骨系統疾患②				
19	スポーツ整形外科 障害者スポーツ				
20	まとめ				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	神経内科学	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	渡邊 利明	背景	臨床・基礎研究および教育経験をふまえて医学教育に従事		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版 医学書院				
授業概要 症候学、疾患各論					
狙いと到達目標 神経解剖学・神経生理学の知識と理解に基づいた神経内科学の学習					
授業において実務経験をどのように生かすか 経験をもとに、最新の高等研究教育情報を用いて、眼前のベッドサイドを意識した教育方針をもって医学教育を行う。					
授業計画・内容					
1	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学①				
2	運動機能の障害 運動麻痺と筋萎縮、脊髄損傷の症候学②				
3	運動機能の障害 運動失調、不随意運動				
4	神経の障害 運動・自律系機能の障害				
5	高次脳機能障害①				
6	高次脳機能障害②				
7	中間試験				
8	脳血管障害 概観①				
9	脳血管障害 概観②				
10	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍①				
11	脳血管障害 脳梗塞、脳腫瘍②				
12	外傷性疾患①				
13	外傷性疾患②				
14	神経変性疾患 脊髄小脳変性症①				
15	神経変性疾患 脊髄小脳変性症②				
16	脱髄性疾患①				
17	脱髄性疾患②				
18	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患①				
19	ミオパチー(筋疾患)、先天性疾患、感染性神経疾患②				
20	まとめ				
評価方法	筆記試験と随時行うレポート提出				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	精神医学	必修	1年後期	20コマ・40時間	
担当教員	江口 聡	背景	精神科コメディカルとして10年勤務		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版(医学書院)				
授業概要					
精神医学の対象である精神疾患と障害に関する講義					
狙いと到達目標					
精神医学について総論的理解および各論にわたり知識を習得する。					
授業において実務経験をどのように生かすか					
精神科における精神疾患の症状や原因、疾患に対するリハビリテーションの知識について、実務経験を活かして精神科多職種連携でコメディカルが必要とされる知識を特にピックアップする。現場の話も併せて伝えることで授業に生かす。					
授業計画・内容					
1	精神医学とは・精神障害の成因と分類				
2	精神機能の障害と精神症状				
3	精神障害の診断と評価				
4	脳器質性精神障害				
5	症状性精神障害・精神作用物質等				
6	てんかん				
7	統合失調症				
8	統合失調症				
9	気分障害				
10	気分障害				
11	神経症性障害				
12	神経症性障害				
13	生理的障害・身体的要因等				
14	成人の人格・行動等の障害				
15	精神遅滞・心理発達の障害				
16	リエゾン精神医学・心身医学				
17	ライフサイクルにおける精神医学				
18	精神障害の治療とリハビリテーション				
19	精神障害の治療とリハビリテーション				
20	精神保健福祉・職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス				
評価方法	筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	精神疾患は現在5大疾病にも数えられており身体的なリハビリの方でも、うつ状態などを経験している方が多くいらっしゃいます。そのため、精神科志望でなくとも今後につながる分野として参加していただけると幸いです。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	小児科学	必修	1年後期	15コマ・30時間	
担当教員	榊原 みゆき	背景	小児科診療に従事して25年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	教科書の指定はなし。授業中に配布するプリントに沿って講義を進める。				
授業概要	小児の成長発達、小児特有の疾患について症例提示をまじえながら系統的に講義する。				
狙いと到達目標	1. 小児の正常な発達、成長を理解する。2. 小児特有の疾患について理解を深める。3. 疾患を持つ小児、およびその家族や社会への関わり方を考える。				
授業において実務経験をどのように生かすか	単なる疾患の概念を解説するにとどまらず、小児科臨床の現場において経験した症例、家族との関わりなどを紹介しながら小児の疾患について理解を深めてもらいたいと考える。				
授業計画・内容					
1	小児科学概要				
2	小児の正常な発達・発育				
3	新生児の疾患				
4	同上				
5	遺伝性疾患				
6	同上				
7	感染症疾患				
8	同上				
9	精神疾患・発達障害				
10	神経学的疾患				
11	同上				
12	同上				
13	その他の小児科疾患				
14	同上				
15	まとめ				
評価方法	15回の講義終了後に行う期末試験の成績にて評価する。 講義の出席数や講義態度も成績評価の要素の一つとなる。				
自由記述 (メッセージ)	授業毎にプリントを配布する。各自整理して保存できるようにファイル等を用意するのが望ましい。 子供は小さな大人ではない。どんな分野に進むにしても小児に関しての理解を深めることは大切と考える。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	臨床心理学	必修	1年前期	10コマ・20時間	
担当教員	中村 実花	背景	心理カウンセラー歴5年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋私語厳禁				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし・適宜プリント配布				
授業概要					
臨床心理学の概要を知り、基礎理論を理解する。また、心理検査の実習を通して、実施方法と結果の解釈の仕方を学ぶ。臨床心理学の実際のプロセスについて知り、他職種連携への理解を深める。					
狙いと到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理学の基本的な考え方を理解できるようになる。</li> <li>・臨床心理学的なアセスメント方法を理解できるようになる。</li> <li>・実際の現場で臨床心理学的な視点をどのように活かすか考えることができるようになる。</li> <li>・自身のメンタルヘルスについて、臨床心理学的な視点から振り返ることができるようになる。</li> </ul>					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床心理学的現象を、他人事としてではなく、私たちにも共通する身近なこととして捉えやすくなるように生かす。					
授業計画・内容					
1	臨床心理学の概要				
2	臨床心理学の基礎理論①精神分析・分析心理学				
3	臨床心理学の基礎理論②行動療法・認知行動療法				
4	臨床心理学の基礎理論③クライアント中心療法・種々の心理療法				
5	心理検査法①質問紙法				
6	心理検査法②知能検査法・神経心理学的検査				
7	心理検査法③投映法				
8	心理臨床の実際①援助を行う際に必要なこと				
9	心理臨床の実際②対人援助職のメンタルヘルス				
10	まとめ				
評価方法	期末テスト100%				
自由記述 (メッセージ)	本授業の内容を理解することに留まらず、これまで自分では考えもしなかった物事の捉え方や見方を知り、多角的に広い視野で考えられる人になってほしい。この授業が自分の心に向き合う大切な時間になるとよいと考えている。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	リハビリテーション概論	必修	1年前期	10コマ・20時間	
担当教員	藤田則貴、遊佐真弓、 松木るりこ、井上洋	背景	養護学校教員3年+高齢者福祉施設開設		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	なし				
<b>授業概要</b> リハビリテーションの理念や諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について学ぶとともに、我が国のリハビリテーションの現状についても学び、理解を深める。					
<b>狙いと到達目標</b> ・リハビリテーションの理念、諸外国と我が国のリハビリテーションの歴史、分野、手段について理解ができるようになる。 ・リハビリテーション・サービスに携わる専門職としての知識を身につけることができる。					
<b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 養護学校の教員の経験(病弱養護学校に2年、知的障害の養護学校に1年)を活かし、教育現場におけるリハビリテーションの実際を、実践を交えながら講義や演習の中に活かしていく。また、認知症高齢者のグループホームの立ち上げにも携わった経験から、高齢者におけるリハビリテーションの重要性等を実践を交えながら併せて講義や演習の中において活かしていく。					
<b>授業計画・内容</b>					
1	リハビリテーションの理念・歴史について(我が国・諸外国) 藤田				
2	リハビリテーションの分野・手段について(我が国・諸外国) 藤田				
3	リハビリテーションの変遷と現状について(我が国・諸外国) 藤田				
4	理学療法サービス 理学療法とその実際① 遊佐				
5	理学療法サービス 理学療法とその実際② 遊佐				
6	理学療法サービス 理学療法とその実際③ 遊佐				
7	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際① 松木				
8	言語聴覚療法サービス 言語療法とその実際② 松木				
9	医学的リハビリテーション リハビリテーション医療とその実際① 井上				
10	医学的リハビリテーション リハビリテーション医療とその実際② 井上				
評価方法	レポート課題、筆記試験				
自由記述 (メッセージ)	活字離れが指摘されている現代、新聞などで、活字に触れ、常に社会の情勢について目配り、気配りできるように心がけて日常生活を送るように心がけてほしい。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	保健医療福祉概論	必修	2年前期	10コマ・20時間	
担当教員	藤田則貴	背景	養護学校教員3年+高齢者福祉施設開設		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	日本ヘルスプロモーション理学療法学会編『理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション 理論と実践』南江堂				
<p><b>授業概要</b> 我が国の保健・医療・福祉の現状を概観し、医療福祉の専門職として求められる知識や技術等を学ぶとともに、今後の保健・医療・福祉の展望と課題についても理解を深める。</p>					
<p><b>狙いと到達目標</b> ・保健・医療・福祉の領域で必要な関連法や制度、社会資源について理解ができるようになる。 ・保健・医療・福祉の領域のサービス内容について理解ができるようになる。 ・保健・医療・福祉の領域に関連する専門職との連携などについて理解ができるようになる。</p>					
<p><b>授業において実務経験をどのように生かすか</b> 養護学校の教員の経験(病弱養護学校に2年、知的障害の養護学校に1年)を活かし、特に福祉の現場で対象となる利用者への対応を、実践を交えながら講義や演習の中に活かしていく。また、認知症高齢者のグループホームの立ち上げにも携わった経験から、高齢者の気持ちや行動の意味付けを実践を交えながら併せて講義や演習の中において活かしていく。</p>					
<b>授業計画・内容</b>					
1	社会福祉とは				
2	医療福祉の概念(医療福祉の意味・医療ソーシャルワークの概念を理解する)				
3	医療保障制度と国民の健康(医療制度・医療保障制度の仕組み)				
4	介護保険制度と医療福祉(介護保険制度と医療給付)				
5	医療福祉の援助を必要とする人々(医療福祉の援助を必要とする人々に対する相談・援助)				
6	医療福祉援助の方法と技術(ケースワーク、グループワーク、ケアマネジメントの実際など)				
7	医療ソーシャルワーカーの業務内容(分野別におけるサービス・援助方法)				
8	医学的リハビリテーション、ソーシャルワーカーの業務内容(医学的リハビリテーション、ソーシャルワーカーの業務の分類)				
9	精神科のソーシャルワーカーの業務内容(精神科のソーシャルワーカーの業務)				
10	今後の医療福祉の展望と課題(保健・医療・福祉の連携)				
	まとめ(保健・医療・福祉の領域のまとめと振り返り)				
評価方法	講義だけでなく、演習も行っていくので、その参加度、レポート課題の提出、科目認定試験を総合的に判断し、評価を行う。				
自由記述 (メッセージ)	活字離れが指摘されている現代、新聞などで、活字に触れ、常に社会の情勢について目配り、気配りできるように心がけて日常生活を送るように心がけてほしい。				